

# 授業科目 公衆栄養学Ⅰ

【担当教員名】 村山伸子	対象学年	2	対象学科	健康
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

## 【一般目標：G I O】

公衆栄養学Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅰでは、日本を中心に、①公衆栄養学の枠組みと計画・実施・評価の進め方、②社会における栄養問題の実態把握、③公衆栄養活動の基盤としての組織、制度、法規、④主要な栄養政策や栄養プログラムについて、ディスカッション形式を入れながら主体的に学ぶ。

## 【行動目標：S B O】

1. 公衆栄養の概念、歴史の概要を説明する。
2. ヘルスプロモーションと関連づけて公衆栄養活動の計画・実施・評価の枠組みと手順を説明する。
3. 日本人の健康、栄養状態、食生活のデータを分析し、現状と課題を読み取る。
4. 栄養問題の要因として日本の食物供給面、社会経済面、自然環境面のデータを調べて分析し、関係づけるための話し合いに参加する。
5. どのような対策が必要なのかについて、話し合いに参加する。
6. 対策のための国や自治体の制度的基盤を、資料を用いて説明する。
7. 日本の栄養問題に対して実施されている栄養行政、国（国民栄養調査、栄養所要量、食生活指針、健康日本21、栄養成分表示制度、特殊栄養食品、学校給食など）や自治体の各種プログラムの内容を概説する。
8. 国際的な栄養問題の主要なものについて、現状、原因、対策について、資料を見ながら説明する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	公衆栄養の概念と役割：①目的、②地域とは、③栄養学の中での位置づけ、④諸学問との関連	1	講義
2	公衆栄養活動の歴史：国と自治体（県、二次医療圏、市町村）、民間。以下の区分でタイムライン（年表）の作成① 社会の事件② 健康・栄養状態、食生活③ 食環境	1	ワークショップ
3	公衆栄養アセスメントの枠組み	2	講義
4	日本人の健康、栄養状態、食生活のデータを歴史的、国際比較の点から分析し、既存資料から現状と課題を読み取る ①人口と食料について ②国民栄養の現状について（国民栄養調査について：目的、歴史、方法、調査内容を含む）	3	講義
5	「国民栄養の現状」から、日本の栄養課題を検討する① 見つけた課題とその根拠を説明する② 課題ごとにグループをつくる（高血圧、高脂血症、高血糖、中年男性肥満、若年女性やせ、貧血等、計8グループ）③ 要因について仮説を構造的に示す	4	ワークショップ
6	グループ発表とディスカッション、補足説明（4グループ）① 課題と要因の構造図② データを用いた説明	4	ワークショップ
7	同上（4グループ）	5	ワークショップ
8	国の公衆栄養活動①：アセスメント、モニタリング国民栄養調査、国民生活基礎調査、家計調査、食料需給表など国の公衆栄養活動②：実施の指針栄養所要量、健康づくり対策の歴史と健康日本21、食生活指針	7	講義
9	国の公衆栄養活動③：主要なプログラム栄養成分表示制度、特殊栄養食品、学校給食など	7	講義
10	公衆栄養活動の制度的基盤：国、自治体、民間の組織と関連、役割、法規、栄養士養成制度など	6	講義
11	自治体の公衆栄養活動：ライフステージ別栄養教育、食環境づくり	7	講義
12	公衆栄養活動の評価：評価の手法、評価の指標	2	講義
13	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策—先進国	8	講義
14	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策—発展途上国	8	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	公衆栄養学	山本茂 他	建帛社	2003年（予定）
参考書	国民栄養の現状 最新版	健康・栄養情報研究会	第一出版	
	第6次改定 日本人の栄養所要量	健康・栄養情報研究会	第一出版	
その他の資料				

## 【評価方法】

- 出席20%
- 積極的参加20%
- 期末試験60%

## 【履修上の留意点】

参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。社会的な事象に興味をもつこと。